

令和8年6月30日14時00分

コンクリート構造物選定マニュアル(ボックスカルバート・擁壁・開水路編)を改訂 ～プレキャスト化のさらなる推進に向けて～

i-Constructionにおけるトップランナー施策の一つである「全体最適の導入(コンクリート工の規格の標準化等)」の取組として運用してきた「コンクリート構造物選定マニュアル(試行案)」について、本省の「VFMによるコンクリート構造物の工法比較に関する実施要領」を踏まえた見直し及び試行結果を反映し、「コンクリート構造物選定マニュアル(ボックスカルバート・擁壁・開水路編)」として取りまとめました。

近畿地方整備局では、産官学で構成する「近畿地方整備局プレキャスト化推進検討会」において、試行結果及び本省要領との整合について検討を行いました。

これらの結果を踏まえ、「コンクリート構造物選定マニュアル(試行案)」を改訂し、「コンクリート構造物選定マニュアル(ボックスカルバート・擁壁・開水路編)」として取りまとめました。

○添付資料

・コンクリート構造物選定マニュアル(ボックスカルバート・擁壁・開水路編)概要

○マニュアルについては、以下のURLに掲載しています。

URL: https://www.kkr.mlit.go.jp/plan/jigyousya/technical_information/gijutsukanri/index.html

<取扱い>

<配布場所> 近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ

<問合せ先> 国土交通省 近畿地方整備局

企画部 工事品質調整官

技術管理課 課長補佐

電話 06-6942-1141(代表)

はらだ とよあき
原田 豊彰(内線3310)

なかおか やすのり
中岡 泰典(内線3158)

- ・コンクリート構造物選定マニュアル(試行案)を、「VFMによるコンクリート構造物の工法比較に関する実施要領(令和8年3月 国土交通省大臣官房技術調査課)」との整合を図り改訂しました。
- ・コンクリート構造物選定マニュアルでは、コストを意識しつつもコスト以外の定量的あるいは定性的評価を加味したVFM (Value For Money) の考え方を取り入れ「最大価値」で評価することを考慮しました。

改訂ポイントは①②のとおりです。

①個別検討をしていたケースの、ボックスカルバート・L型擁壁は、**VFMによる評価を行って施工方法を選定**できます。

②特にボックスカルバートは、**標準的な寸法で内空断面積35㎡ 以下**の場合は**プレキャスト製品**を選定できます。

コンクリート構造物選定マニュアル(試行案)(令和6年3月)

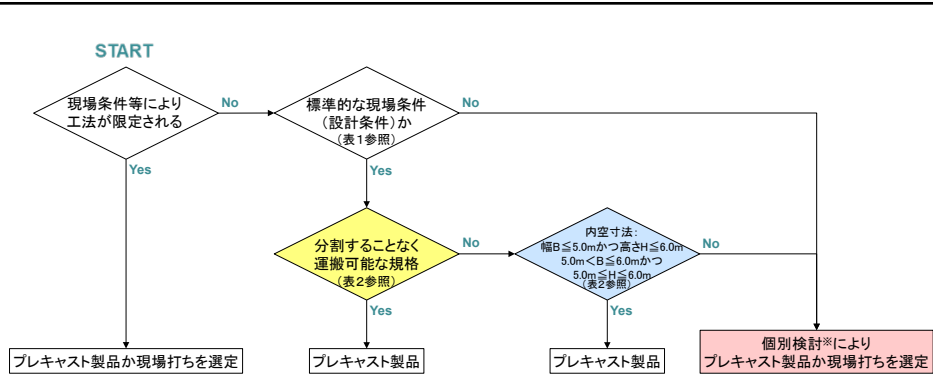


図1 工法選定フロー (ボックスカルバート)

表2 規格の目安 (ボックスカルバート)

ボックス カルバート		内空幅B(m)				
		B≦3.0	B≦4.0	B≦5.0	B≦6.0	6.0<B
内 空 高 H (m)	H≦2.5	分割運搬不要(PCaを選定)			個別検討	
	H≦3.0					
	H≦4.0					
	5.0≦H	分割運搬必要(PCaを選定)				
	H≦6.0					
	6.0<H					

コンクリート構造物選定マニュアル(令和8年6月)

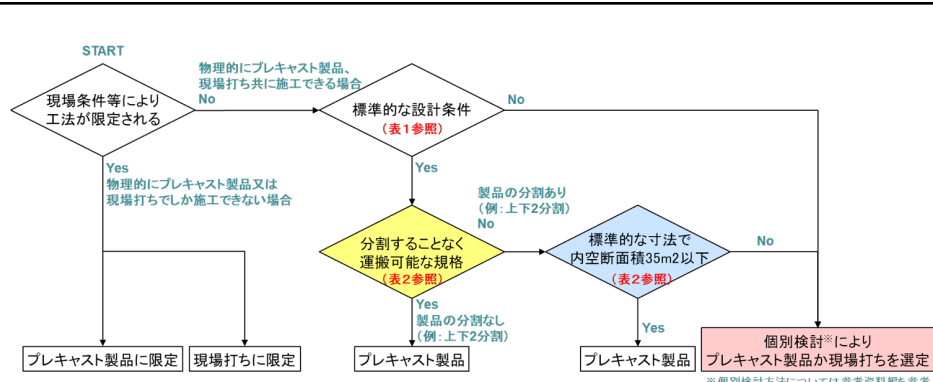


図1 工法選定フロー (ボックスカルバート)

表2 規格の目安 (ボックスカルバート)

ボックスカルバート	内空高H (m)	内空幅B (m)		
		B ≤ 3.0	B ≤ 5.0	5.0 < B
内空高H (m)	H ≤ 2.5	分割運搬不要 (PCaを選定)		
	H ≤ 3.0			
	3.0 < H	内空断面積35㎡以下 (PCaを選定)		
		内空断面積35㎡超 (個別検討)		

※擁壁(逆T式擁壁、重力式擁壁)・開水路
本省の要領(VFMで評価)対象外のため、引き続き個別検討にて選定

・本省実施要領 (VFMで評価)

・コンクリート構造物選定マニュアル(試行案)を、「VFMによるコンクリート構造物の工法比較に関する実施要領(令和8年3月 国土交通省大臣官房技術調査課)」との整合を図り改訂しました。

1. 近畿地方整備局プレキャスト化推進検討会 検討体制

学識者	(委員長) 宮川 豊章(京都大学) 井上 晋(大阪工業大学) 鶴田 浩章(関西大学) (※敬称略)
関係団体	(一社)日本建設業連合会関西支部 (一社)建設コンサルタンツ協会近畿支部
発注機関	近畿地方整備局 (企画部、道路部、河川部、近畿技術事務所、出張所長・監督官連絡会)



2. 目的

コンクリート構造物選定マニュアル(ボックスカルバート・擁壁・開水路編)(以下「本マニュアル」という。)は、ボックスカルバート、擁壁および開水路の構造形式の工法選定にあたり、プレキャスト製品、または現場打ちの採用における標準的な選定方法を示すことを目的としている。

3. 適用範囲

本マニュアルは、近畿地方整備局が今後実施する設計業務や現場変更の協議において、ボックスカルバート、擁壁および開水路のプレキャスト製品または現場打ちの工法選定における標準的な比較検討に適用する。

4. 基本的な考え方

本マニュアルにおいては、コスト比較においてプレキャスト製品の均質な特性などを考慮したライフサイクルコストの検討、コストを意識しつつもコスト以外の定量的あるいは定性的評価を加味した VFM (Value For Money) の考え方を取り入れ「最大価値」で評価することを考慮して、標準的な選定方法を定めている。